

## 製品安全データシート

会社名	株式会社 インターベット
担当部門	ポーター&アグアカルチャー事業部
住 所	東京都千代田区九段北 1-13-12
連絡先	TEL 03-6272-0770 FAX 03-6238-9080
作成日	2012年 9月 12日(新規)
改訂日	2014年 3月 26日
改訂日	2019年1月 23日

<b>【製品名】</b>	フジラック 30		
(組成)	ユッカ抽出物	バーミキュライト	炭酸カルシウム

### 【物質の特定】

製品の区分	混合物(ユッカ抽出物含有混合資料)		
化学名	ユッカ抽出物	バーミキュライト	炭酸カルシウム
含有量	30%	38%	31%
CAS No.	—	—	471-34-1

### 【危険有害性の分類】

分類の名称	分類基準に該当しない。
危険性	通常の実験方法では危険性はない。
有害性	不明(飼料に添加して使用)
環境影響	不明(悪臭対策に使用)

### 【救急措置】

衣類に付着した場合	汚染された衣類等を脱ぎ、洗濯する。
皮膚に触れた場合	触れた部分を石鹼をつけて水を流しながら洗浄する。違和感がある場合は医師の診察を受ける。
目に入った場合	直ちに清浄な水で最低 15 分間、目を洗眼した後、眼科医の手当てを受ける。
吸入した場合	新鮮な空気の下で安静にして、様子を見る。呼吸が困難な場合は、人工呼吸を行い、医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに大量の水を飲ませ、医師の診察を受ける。

### 【火災時の措置】

消火方法	初期の消火には、消火剤を用いて消火する。 大規模火災の際には泡消火剤や土砂等を用いて覆い、空気を遮断することも有効である。 消火作業の際には、必ず保護具を着用し、風上から作業する。 燃えると、有毒ガス(炭素、窒素、硫化物、フッ素や塩化化合物等)を発生する可能性がある。
消火剤	水、泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂等。

### 【漏出時の措置】

- ・ 掃き集めて、ビニール袋に入れて、焼却する。掃き取った後は、大量の水で洗い流す。

### 【取扱い及び保管上の注意】

- ・粉末製剤であり、空気中に飛散する可能性があるため、換気のできる場所で取り扱うこと。
- ・帯電する恐れがあるので、伝導性のよい容器を使用すること。
- ・適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。
- ・作業後には衣類を良く払い、手足や口、眼、顔等をよく洗浄する。
- ・使用済みの空容器は、一定の場所を定めて集積する。
- ・保管は、直射日光や高温・多湿な場所を避け、密閉して屋内に保管する。

---

#### 【暴露防止措置】

- |       |  |
|-------|--|
| 管理濃度  | 設定なし。                                      |
| 許容濃度  | 設定なし。                                      |
| 設備対策  | 取扱いは換気の良い場所で行う。<br>取扱い場所の付近には洗眼器具の設置が望ましい。 |
| 個人保護具 | 簡易防塵マスク、ゴーグル型保護めがね、ゴム手袋、長ズボン、長袖シャツ等。       |

---

#### 【物理・化学的性質】

- |       |         |
|-------|---------|
| 外 観   | 淡褐色の粉末  |
| 溶 解 性 | 水に溶けない。 |

---

#### 【危険性情報】

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| 引火点 | なし。                  |
| 可燃性 | あり。                  |
| 発火性 | 自然発火性はない。            |
| 爆発性 | 通常の手扱いで安定。           |
| 安定性 | 通常の手扱いや一般的な使用条件では安定。 |

---

#### 【安定性と反応性】

- |      |                     |
|------|---------------------|
| 禁忌条件 | 火炎。                 |
| 禁忌物質 | 酸化物や強酸、強アルカリとの混合。   |
| 分解物  | 炭素、窒素、硫化物、フッ素や塩素化合物 |

---

#### 【毒性情報】

- |      |               |
|------|---------------|
| 急性毒性 | ラットで毒性兆候は認めない |
| 局所刺激 | 不明            |

---

#### 【廃棄上の注意】

- ・除害装置付きの焼却炉で少量ずつ焼却するか、専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。
- ・少量の場合は、開放型の焼却炉で焼却する。
- ・空容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。

---

#### 【輸送上の注意】

- ・容器が破損しないよう、手荒な取扱いを避ける。
- ・運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う

---

#### 【適用法規】

飼料安全法

---

#### 【その他】

本品は、混合飼料として届出ているが、危険有害性の評価は充分ではありませんので、充分注意して取扱ってください。